

第42回 うつのみやこども賞だより

令和7(2025)年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『引きこもり姉ちゃんのアルゴリズム推理』

井上 真偽／著 くろでこ／絵（朝日新聞出版）

～読んだ本の感想より～



令和7年9月 7日

- 推理をしながらテンポ良くすすんでいく2人の姿が良かった。
- どんな大きな問題があったとしても、古文里のように1個1個ていねいに理解していけば、ヒントが出てくることが分かった。
- マモルのために、ずっと部屋にいる姉ちゃんが次々問題を解いていくストーリーがすてきだった。
- 現実でも使える「アルゴリズム」のやり方が載っているのがためになりました。
- いろいろな個性的キャラクターが登場したり、話を進めながらアルゴリズムの勉強ができるというところが良かった。
- アルゴリズムはいろいろな物を解決できて、すごいなあと思いました。
- 身の回りで使われているアルゴリズムが楽しく覚えられてとても面白かったし、最後の「ダイクストラ・アルゴリズム」が難しかったです。

『ハルカの世界』

小森 香折／作 さとう ゆうすけ／絵（BL出版）

- この本はユニコーンや現実ではない動物も出てきて、とても楽しく読むことができました。
- 現実と夢の話がうまくからみあって出来ているお話で、おもしろかったです。主人公「ハルカ」の夢はとてもきれいで、1度見てみたいと思いました。
- ハルカが抱える複雑な気持ち（家族）がおもしろかったです。
- ハルカの中の夢と現実が行ったり来たりしていて、夢の中のアウレリアの話がおもしろかった。
- ハルカが空想か現実か分からなくなっている時は、私も「どっちなのだろう？」と思った。

『キャロットバトン』

こまつ あやこ／著（毎日新聞出版）

- それぞれの小学生が自分の体験をふまえて文を作っていくところがワクワクした。
- 童話リレーをしていく時、いろいろな人と関わりながら作っているところがおもしろかったです。
- 「走る」リレーじゃなくても、ゴールに向かってがんばる4人がかっこよくて良かった。
- 私は運動が苦手なので、咲絵の気持ちが分かる。
- 勇真がお父さんに自分の好きなことが童話だと伝える勇気がすごいと思った。
- 千弦が陸上ことわざコレクションを作っていて、好きなことを突きつめられることは良いことだと思った。

『ミハイルのハーモニカ』

高橋 良子／文 金子 恵／絵（文研出版）

- 戦争のことや外国とのつながりが、より複雑に考えられました。仲の良かった人と突然別れることになったら悲しいし、どんな思いだったか、考えられないほど深かったと思います。
- 今年は戦後80年なので、戦争についてよく考えさせられる本でした。
- 今年は戦後80年で、戦争に関わる本を読むと80年くらい前にこんなことがあったのだと思えるし、今は外国での戦争があるけれど、絶対してはダメだなと改めて思った。
- 良太に戦争のつらさ・怖さ・残こくさとミハイルの思いを引きついでほしいし、自分も引きつがないと！と思った。